

# 高雄日本人学校の風

校長 高口 和治

先週金曜日の山崎先生の5年生学級活動の授業。

「2年生との交流会を2年生に楽しんでもらえる企画をしよう」という内容でした。私自身も新潟附属で特別活動（学級活動）の研究をしていた関係で大変興味深く見ました。圧巻は、授業の最後の方で「2年生にこの前の福東との交流会でレイをもらってうれしかったから、レイをおくろう」という提案がありました。すぐに反対意見がでました。それも、「私も嬉しかったけど、時間がない。今回はやめた方がいい」という、内容は肯定して、方法論で反対をする主旨の発言でした。そこで、数人が発言して、それならば、レイはおくるけど、つくるのに時間がかからない物にしようということになりました。それも、反対意見を述べていた子どもが方法論を検討したところで、賛成に回りました。学級活動の授業をおそらく100回はしたり、見たり、指導したりしています。このような発言が可能になっているのは、4月からの積み重ね。もしかすると、その前からの積み重ねで、「反対してもOKな人間関係」「折り合いをつけていこうという技術をもっている」ということが言えます。大人の社会でもこれができているわけではなく、できていない集団の方が多いかも知れない。バカにすることも冷やかしまない。一人一人が支え合っている印象を受けました。また、偶然ですが、交流をする2年生とは弟がいる子どもが4人もいて、2年生の実態を押さえて、相手を楽しませることが自分たちの楽しみだという意識でいたようです。もちろん、学級活動の技術的なことは押さえていました。司会はなかなか育たないのですが、大変うまく、話題を広げたり、しぼったり、整理したり、意見を述べることでまとめをしたりとして、大人顔まけでした。「他にありませんか」をおそらく一回しか使わなかったと思います。山崎先生は何をしていたか、3回くらい司会者に声をかけたと思います。（思いますというのは、小さな声でアドバイスだと思うのですが）事前の仕込みが大変だったと思います。本番は、教師がでなくても自分たちでできるというのが学活なのです。その意味でも育っていました。

## 12月2日（火）

2時間目に中3の国語、佐藤先生の授業がありました。

古典の授業でした。伊勢物語です。前もって、以前に学習した古典文法のまとめが提示されました。そこで、「昔、男ありけり。その男、・・・」で文法的な確認をしていきます。もし、忘れていた生徒がいたら、配られたものをヒントにして自分で読み進めることができるようにという配慮です。授業のクライマックスは、「水ゆく河の蜘蛛手なれば、」

が、文章のどこに入るかということ佐藤先生が問いました。どこから、手をつけたらいいかわからないという雰囲気が漂いました。しかし、水ゆく・・・「の」は現代語では、「が」で、「ば」は、なので（確定条件）ということがつかんだところで、3人ごとのグループになりました。（教師としては不安になりいろいろ教えたくなくなってしまうのですが、我慢していたようです。）全体の話し合いでは、「文脈から説明をしている部分に入る」という発言をうけて確定していきました。

この授業の理論的なところは、教える（と、言っても3年間で忘れていくこともあるということ、提示をする）→基礎的な問題を読み→内容を予測し考えるということになります。義務教育9年の総決算の学習と学習の仕方になります。

3時間目に小2国語安藤先生の授業がありました。

教科の絵をテレビに映し、みんなで確認しあいました。その後、1年生で習った漢字を確認（まず、目で読ませ、口で確認）し、数字が関係している内容なので、算数の問題をつくらせました。相互評価でよいと思う文章に○をつけたり、コメントをいれたりしていました。コメントは、内容に関わるとするとかなり小2にとっては、むずかしいことになると思います。友だちの作品への褒め言葉があふれていました。

## 12月4日（木）

1時間目に、職員が自主研修している菅原先生の授業が小3でありました。当校では、特に小学部では、日本語をしっかり使え、学習言語となるように努めています。

そこで、「待ち合わせにおくれそうになったので、**急いで**家を出た。」と「待ち合わせにおくれそうになったので、**あわてて**家を出た。」の「急いで」と「あわてて」の違いを比較しました。家庭でどのように使っているかが、この場面では経験値として現れてきます。ここで重要になるのは、言葉と体験が一致している子どもの発言や表現が、体験だけして、言葉と結びついていない子どもへの転化が可能になっていたかです。経験値としてある子どもは整理することで、身に付けていきます。体験はしているが、言葉と結びついていない子どもはこの授業で理解したと思います。大人も外国語を学ぶときに、似ている意味なのに、この場合は、そうは言わないということで戸惑います。説明も受けませんが、どうもじっくりいかないことが多いと感じています。小学校4年くらいで母語としての日本語が確立すると一般的に言われています。大変重要な授業でした。

3時間目に、中1で山口先生の社会科授業がありました。私は、この学年は、小4で社会科を教えていますので、（あたりまえですが）ものすごい成長を確認しました。グラフからの確に事象を読み取っていました。また、読み取ったことと、推測していることも使い分けています。グラフを2つ読み取った上で、さらに新たなグラフと比較するというのは、中1にとって比較的むずかしい作業だと思います。よくやっていました。さらに、映像から事実を読み取る力もついていました。これはむずかしいだろうと思うことも的確にこないして驚きました（失礼ですが）

